

## 第7回 日本証券サミット

日時：2015年2月11日(水)13:30～

場所：英国ロンドン マンションハウス

主催：日本証券業協会（JSDA）、国際資本市場協会（ICMA）

協賛：日本取引所グループ、The Japan Society、EUROWEEK

プログラム概要：

歓迎の辞・開会挨拶 13:30 – 13:40

基調講演Ⅰ「持続的成長への道」 13:40 – 13:55

東京大学大学院 経済学研究科教授 伊藤 元重 氏

基調プレゼンテーション 13:55 – 14:10

財務省 国際局長 浅川 雅嗣 氏（調整中）

パネル・ディスカッションⅠ「日本経済の課題と展望」 14:10 – 15:30

ゲスト・スピーチ 15:50 – 15:55

シティ・オブ・ロンドン（現/前）ロード・メイヤー（調整中）

基調講演Ⅱ「日本—逆境を乗り越えて未来に向かう国」 15:55 – 16:10

フィナンシャル・タイムズ アジア・エディター デビッド・ピリング 氏

パネルディスカッションⅡ「日本の資本市場：金融センターとしての将来展望」16:10–17:30

レセプション 17:30 – 19:00

ゲスト・スピーチ：在英国特命全権大使 林 景一 氏

Welcome & Opening Remarks

13:30 – 13:40

Martin Scheck, *Chief Executive, International Capital Market Association (ICMA)*

Kazutoshi Inano, *Chairman and CEO, Japan Securities Dealers Association (JSDA)*

Keynote Speech I

13:40 – 13:55

Path toward Sustainable Growth

• **Speaker**

Mr. Motoshige Itoh, *Professor, Graduate School of Economics, Faculty of Economics, the University of Tokyo*

Since Japan is restoring vitality to its economy, fiscal consolidation and structural reforms are now the key to moving onto a sustainable growth path. Professor Motoshige Itoh, who has assumed a leading role in the government's policy deliberation process, provides an outlook for achieving fiscal soundness including the consumption tax hike. He also provides an update on the growth strategy aimed at addressing the demographic changes and fostering vigour in the economy.

Keynote Presentation

13:55 – 14:10

• **Presenter**

(TBC: Mr. Masatsugu Asakawa, *Director General, International Bureau, Ministry of Finance*)

Challenges and Prospects of the Japanese Economy

• **Speakers**

**Mr. Jacques Cailloux** (Moderator), *Chief European Economist, Nomura International Plc*

**Mr. Makoto Fujishiro**, *Deputy Director-General (Government Finance) of the Financial Bureau, Ministry of Finance*

**Mr. Jesper Koll**, *Managing Director, Head of Japanese Equity Research, JP Morgan Securities Japan Co. Ltd.*

**Ms. Naoko Nemoto**, *Managing Director, Standard & Poor's Ratings Japan K.K.*

**Mr. Takehiro Sato**, *Member of the Policy Board, Bank of Japan*

**Sir David John Wright**, *Vice-Chairman, Barclays Capital, the Investment Banking arm of Barclays plc. (Former Ambassador to Japan)*

The Japanese economy is breaking out of its prolonged doldrums in response to the fiscal and monetary measures implemented so far. In order to ensure long-term sustainable and vigorous growth, however, Japan faces a number of significant challenges amid a declining and aging population. This country needs to revitalize entrepreneurship and investment as well as reform the social security system while achieving fiscal consolidation. The first panel discusses Japan's future from a macro-economic point of view and in light of necessary structural adjustments. What impact will the BOJ's bold monetary policy have on the economy and capital market? How does the government manage its public debt and maintain the JGB market's stability? Will the measures under the growth strategy achieve their policy goals? How will the GPIF reform work out? Can Japan eventually become a major contributor to and beneficiary of Asia's growth?

Guest Speech 15:50 — 15:55

- **Speaker**

(TBC: The Lord Mayor of the City of London)

Keynote Speech II 15:55 — 16:10

**Japan: Overcoming Adversity and the Road Ahead**

- **Speaker**

Mr. David Pilling, *Asia Editor, Financial Times*

Japan has a history of overcoming adversity and of making dramatic policy shifts in times of crisis. David Pilling, who recently published his book, *Bending Adversity: Japan and the Art of Survival*, will discuss recent developments in Japan - both economic and political - in the light of its history of confronting internal and external difficulties. Can the country that achieved dramatic economic development from the late-19th century, bounced back from the devastation of World War II and is slowly recovering from the huge earthquake and tsunami of March 2011 stage a new comeback after years of economic stagnation? What is the source of Japan's resilience and will it be enough to see through its current and future problems?

**Keynote Presentation & Panel Discussion 2      16:10 – 17:30**

**The Japanese Capital Market: Future Roles as an International Financial Centre**

**Mr. Keiichi Hayashi, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary** **Mr. Atsushi Saito**  
(Lead speaker), *Group CEO, Japan Exchange Group, Inc.*

**Mr. Paul Hunter** (Moderator), *Secretary General, International Bankers Association of Japan*

**Ms. Kiyomi Saito, CEO of JBond Totan Securities Co., Ltd., and Director of Toshiba Corporation and Japan Post Insurance Co., Ltd.**

**Mr. Shunsuke Shirakawa, Deputy Commissioner for International Affairs, Financial Services Agency, and Counselor, Japan Economic Revitalization Bureau, Cabinet Secretariat**

**Mr. Godfried de Vidts, Board member of ICMA and the Chairman of the European Repo Council**

Japan's capital market is one of the most dynamic in terms of scale, liquidity and variety of products. It is home to numerous companies with cutting-edge technologies and offers vast fund-raising, investment and business opportunities. Japan's capital market will also play an even more important role in underpinning Japanese economic growth through a more efficient allocation of available capital and enabling the increased mobility of resources. The second panel will discuss changes to the infrastructure and measures necessary to further raise the market's efficiency and returns for investors. Discussion points will include: Japan's new Stewardship Code for institutional investors and the new corporate governance code which is currently being developed. The panellists will also discuss the challenges facing Japan's market in a changing global environment and the prospects for the future success of Japanese corporations and the overall market.

**Reception**      17:30 — 19:00

**Guest Speech:** Mr. Keiichi Hayashi, *Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary*

**歓迎の辞・開会挨拶** 13:30 — 13:40

国際資本市場協会（ICMA） CEO マーティン・シェック 氏  
日本証券業協会（JSDA） 会長 稲野 和利 氏

**基調講演 I** 13:40 — 13:55

**「持続的成長への道」**

東京大学大学院 経済学研究科教授 伊藤 元重 氏

景気回復に取り組んでいる日本にとって、財政再建及び構造改革は持続的成長軌道に乗るための鍵となる。政府の政策検討過程において先導的な役割を担う伊藤元重教授が、消費増税を含む財政健全化達成のための展望について解説する。伊藤教授はまた、人口構造の変化や活力ある経済育成に取り組むための成長戦略について、最新の情報を提供する。

**基調プレゼンテーション** 13:55 — 14:10

財務省 国際局長 浅川 雅嗣 氏（調整中）

パネル・ディスカッション 1 14:10 – 15:30

**「日本経済の課題と展望」**

(モデレーター) 野村インターナショナル チーフ欧州エコノミスト ジャック・カユ 氏  
 (パネリスト) JP モルガン証券 マネージングディレクター 株式調査部長 イェスパー・コール 氏  
 財務省 理財局審議官 藤城 眞 氏  
 日本銀行 政策委員会審議委員 佐藤 健裕 氏  
 バークレイズ・キャピタル 副会長 (元駐日大使) デビッド・ライト 氏  
 スタンダード&プアーズ・レーティング・ジャパン マネージングディレクター 根本 直子 氏

日本経済は、これまでの財政・金融政策の結果、長きに亘る停滞から抜け出しつつある。長期的に持続可能で力強い成長を確かなものとするため、日本は人口減少と高齢化の進行下で多くの重要な問題に直面している。我が国は起業家精神と投資に活力を吹き込み、また財政再建を実現しながら社会保障制度の改革にも取り組んでいかなければならない。パネル・ディスカッション1では、マクロ経済の視点及び必要な構造改革の観点から日本の将来について議論を行う。日銀の大胆な金融政策は経済や資本市場にどのような影響をもたらすのか？政府は公的債務をどのように管理し、国債市場の安定性を維持するのか？成長戦略下の方策は政策目標を達成できるのか？GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）改革は良い結果をもたらすのか？日本は最終的にアジアの成長への主要な貢献者となり、また受益者となることができるのか？

ゲスト・スピーチ 15:50 – 15:55

シティ・オブ・ロンドン（現／前）ロード・メイヤー（調整中）

基調講演 II 15:55 – 16:10

「日本－逆境を乗り越えて未来に向かう国」

フィナンシャル・タイムズ アジア・エディター デビッド・ピリング 氏

日本には逆境を克服し、難局に際して果敢な政策転換を実行してきた歴史がある。「Bending Adversity」（日本－喪失と再起の物語）の著者 デイビッド・ピリング氏が日本における最近の経済・政治の動きを、これまで内外の困難に立ち向かってきた歴史に照らしながら考察する。19世紀後半からの劇的な経済発展の達成、第二次世界大戦の荒廃からの復興、また2011年3月の東日本大震災からも緩やかではあるが回復を見せるこの国は、長年に亘る経済停滞から新たな復活のステージに上ることができるのか？何が日本の弾力性の源泉となり、それは現在及び将来の問題を乗り越えるのに十分と言えるのか？

パネルディスカッション 2 16:10 – 17:30

**「日本の資本市場：金融センターとしての将来展望」**

(リードスピーカー・パネリスト) 日本取引所グループ 取締役兼代表執行役グループ CEO

齊藤 惇 氏

(モデレーター) 国際銀行協会 事務局長 ポール・ハンター 氏

(パネリスト) ICMA 理事会メンバー、欧州レポ協議会議長 ゴッドフリード・デ・ビッツ氏

ジェイ・ボンド東短証券 CEO、株式会社東芝・株式会社かんぽ生命保険 社外  
取締役 齋藤 聖美 氏

金融庁総務企画局参事官 (国際担当) 兼内閣官房日本経済再生総合事務局参  
事官 白川 俊介 氏

日本の資本市場は、その規模、流動性、商品の多様性から最もダイナミックな市場の一つであり、膨大な数の最先端の技術を持つ企業の母市場であると同時に、巨額の資金調達、投資及びビジネス機会を提供している。また、我が国の資本市場は、より効率的な資産配分と資源移動を通じて日本の経済成長を下支えするより一層重要な役割を果たしている。パネルディスカッション2では、より一層市場の効率性を高め、投資家へのリターンを向上させるために必要なインフラ改革と施策について議論を行う。議論のポイントには、日本の新たな機関投資家向けスチュワードシップ・コードや現在策定中の新たなコーポレート・ガバナンスコードが含まれる。また、グローバルな環境変化の中で日本の市場が直面する課題や日本企業及び市場全体の将来的な成功の見通しについても議論する。

レセプション 17:30 – 19:00

ゲスト・スピーチ： 在英国特命全権大使 林 景一 氏

総務委員会及び行動規範委員会の開催状況について  
 (平成 26 年 11 月 19 日～平成 27 年 1 月 20 日)

平成 27 年 1 月 21 日

○ 総務委員会

開催日	議 案
平成 26 年 12 月 9 日	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務局イントラネットのリプレースに係る発注先選定について</li> <li>2. 金融商品取引業の拡大等に伴う「定款」の一部改正に関するパブリック・コメントの募集について</li> </ol> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 特定業務会員の入会金及び会費負担等の在り方について</li> </ol>
12 月 16 日 (持回り)	<p>【審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の本協会脱退について</li> </ul>
平成 27 年 1 月 15 日 (持回り)	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 金融商品取引業の拡大等に伴う「定款」の一部改正に関するパブリック・コメントの募集について</li> <li>2. イン트라ネット（ファイルサーバ等）リプレースに係る契約の締結について</li> </ol>

○ 行動規範委員会

開催日	議 案
平成 26 年 11 月 19 日	<p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 副委員長の選任について</li> </ol> <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 「顧客資産の分別管理に関する外部監査等のあり方検討ワーキング・グループ」における検討状況について</li> <li>3. 丸大証券元役職員の逮捕に関する会長談話について</li> <li>4. 「総合取引所制度等への取組みに関する特別委員会」報告書について</li> <li>5. 証券界を取り巻く最近の課題について</li> </ol>

以 上

## 大学生・社会人向けセミナーの開催について

平成 27 年 1 月 21 日

日本証券業協会では、下記のとおり、大学生及び社会人の方を対象に、各種のセミナーを開催いたします。

### 1. 大学生のための「パーソナルファイナンスセミナー」

大学生・大学院生を対象に、社会人になってからの資産形成・運用の重要性に関する理解を深めるとともに、ライフプランの立て方やライフイベントの考え方、効率的な金銭管理のために必要な知識・スキルを身に付けていただくことを目的として開催。

対象者	大学生・大学院生
会場・開催日・募集人数	東京会場：平成 27 年 2 月 10 日（火）10:00～16:50（100 名×2 回） 名古屋会場：平成 27 年 2 月 19 日（木）13:30～16:20（50 名） 大阪会場：平成 27 年 2 月 20 日（金）13:30～16:20（50 名）
内容	第 1 部 講義 「ライフプラン・マネープラン・資産運用の基礎知識（仮題）」 第 2 部 グループワーク 「みんなでポートフォリオを組んでみよう！」
主催	日本証券業協会
応募方法	日本証券業協会ホームページ（大学生・大学院生向けセミナー情報）

※後日、本協会ホームページにおいて、セミナーの様態をオンデマンド配信します。

### 2. 若年層女性向けセミナー

投資や資産運用への関心が高い働く女性を対象に、ライフプラン・マネープラン及び資産運用の重要性、各金融商品や NISA 制度等の活用についての理解を深めていただくことを目的として開催。

対象者	主に若年世代の働く女性
開催日・募集人数・会場	第 1 回 平成 27 年 2 月 19 日（木）19:00～20:30（240 名） 第 2 回 平成 27 年 2 月 23 日（月）19:00～20:30（240 名） ※会場は各回とも丸ビルホール
内容	「マネー美人レッスン～未来のワタシへの投資、ちゃんとできてる？～（仮題）」 第 1 回・基礎編 ①本当はもっと貯められる？ 無駄遣いチェック！家計簿診断 ②ライフプラン、マネープランの重要性 ③資産運用のさまざまな方法、リスクをおさえるには？ 第 2 回・実践編 ①私にぴったりの投資って？（NISA 制度、金融商品概要） ②私のポートフォリオを作ってみよう！（ワークショップ） ③これからの自分に合う NISA 運用方法を考える（複数年の運用について） 講師：山口京子氏（ファイナンシャル・プランナー） ゲスト：福田萌氏（タレント・2 級 FP 技能士）
主催	証券知識普及プロジェクト（日本証券業協会等で構成）、マイナビウーマン
応募方法	マイナビウーマンのウェブサイト

※後日、本協会ホームページにおいて、セミナーの様態をオンデマンド配信します。

### 3. シニアのための金融知識セミナー

シニア層及びその周囲の方（御家族等）を対象に、株や社債をかたった投資詐欺事案や証券に関する基本的知識を提供し、投資詐欺や金融トラブルに巻き込まれる事案の未然防止に資することを目的として開催。

対象者	シニア層及びその周囲の方（御家族等）
会場・開催日・募集人数	茅場町会場：平成 27 年 3 月 6 日（金）14:00～15:45（240 名） 立川会場：平成 27 年 3 月 13 日（金）14:00～15:45（70 名）
内容	「聞かなきゃ損！ いまさら聞けないお金のイ・ロ・ハ ～株式・債券の違いって何？～」 第 1 部 再現ドラマ（又は落語）で学ぶ投資詐欺 ～だましの手口はイロイロです！～ 第 2 部 聞いて学ぶ 「聞かなきゃ損！いまさら聞けないお金のイ・ロ・ハ ～株式・債券の違いって何？～」
主催	日本証券業協会、東京都消費生活総合センター
応募方法	イートーシ・ネット、はがき、FAX

以 上

#### ○本件に関するお問合せ先

「1. パーソナルファイナンスセミナー」について

金融・証券教育支援本部 金融・証券教育支援センター TEL.03-3667-8029

「2. 若年層女性向けセミナー」、「3. シニアのための金融知識セミナー」について

金融・証券教育支援本部 普及・啓発部 TEL.03-3667-8020

# NISA口座の開設・利用状況について

平成26年6月30日現在  
日本証券業協会

# I —1 NISA口座の開設状況(平成26年6月30日現在)



	平成26年 6月30日現在	平成26年 3月31日現在	増減
<b>1. NISA取扱金融機関</b>	717社	686社	31社増加
(うち 証券会社 銀行等)	証券会社 131社	129社	2社増加
	銀行等 586社	557社	29社増加
<b>2. NISA総口座数</b>	7,273,667口座	6,503,951口座	769,716口座、11.8%増加
(うち 証券会社 銀行等)	証券会社 4,632,298口座 (構成比 63.7%)	4,215,774口座 (構成比 64.8%)	416,524口座、9.9%増加
	銀行等 2,641,369口座 (構成比 36.3%)	2,288,177口座 (構成比 35.2%)	353,192口座、15.4%増加

※NISA総口座は、制度開始(平成26年1月)から半年で約235万口座、約48%増加。

出所) 金融庁公表資料

# I—2 NISA口座の買付額(平成26年6月30日現在)

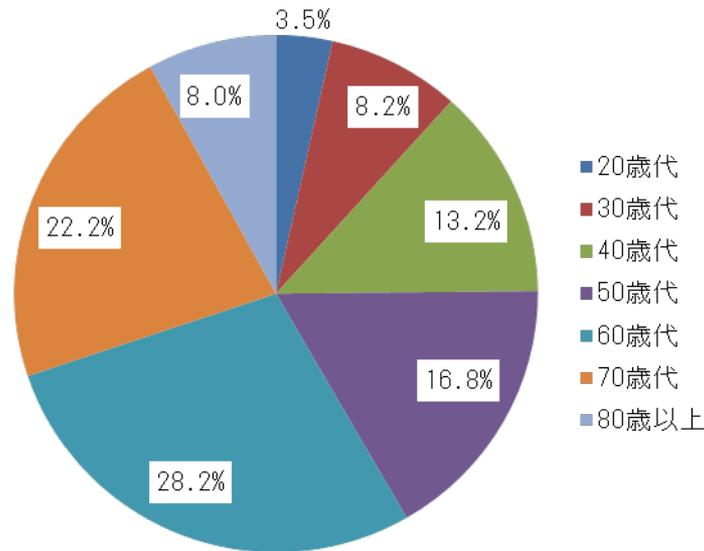


	平成26年6月30日現在	平成26年3月31日現在	増減
<b>NISA総買付額</b>	1兆5,631億22百万円	1兆34億46百万円	5,596億76百万円、 55.8% 増加
〔うち 証券会社 銀行等〕	構成比	構成比	
	9,201億77百万円 (58.9%)	6,080億24百万円 (60.6%)	
	6,429億45百万円 (41.1%)	3,954億22百万円 (39.4%)	
<b>上場株式</b>	4,949億15百万円 (31.7%)	3,645億14百万円 (36.3%)	1,304億1百万円、 35.8% 増加
<b>投資信託</b>	1兆396億0百万円 (66.5%)	6,212億08百万円 (61.9%)	4,183億92百万円、 67.4% 増加
〔うち 証券会社 銀行等〕	3,966億54百万円 (38.2%)	2,257億87百万円 (36.3%)	
	6,429億46百万円 (61.8%)	3,954億22百万円 (63.7%)	
<b>ETF</b>	140億30百万円 (0.9%)	91億4百万円 (0.9%)	49億26百万円、 54.1% 増加
<b>REIT</b>	145億78百万円 (0.9%)	86億20百万円 (0.9%)	59億58百万円、 69.1% 増加

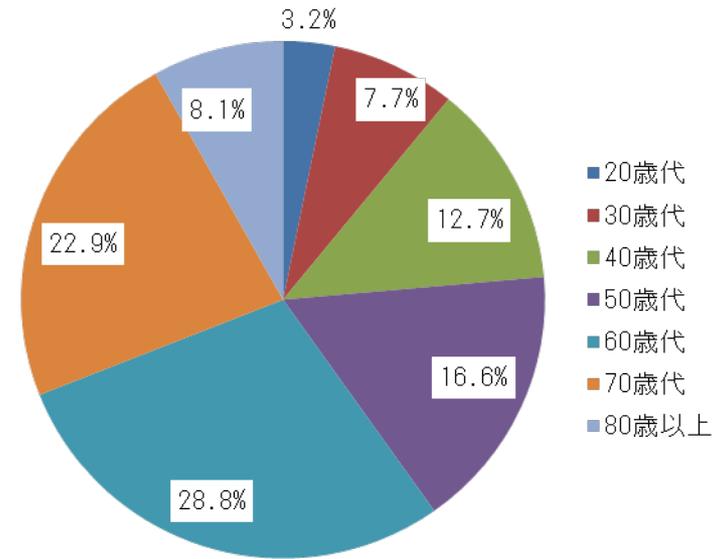
出所) 金融庁公表資料

# I-3 年代別NISA口座の開設状況(平成26年6月30日現在)

### 平成26年6月30日現在



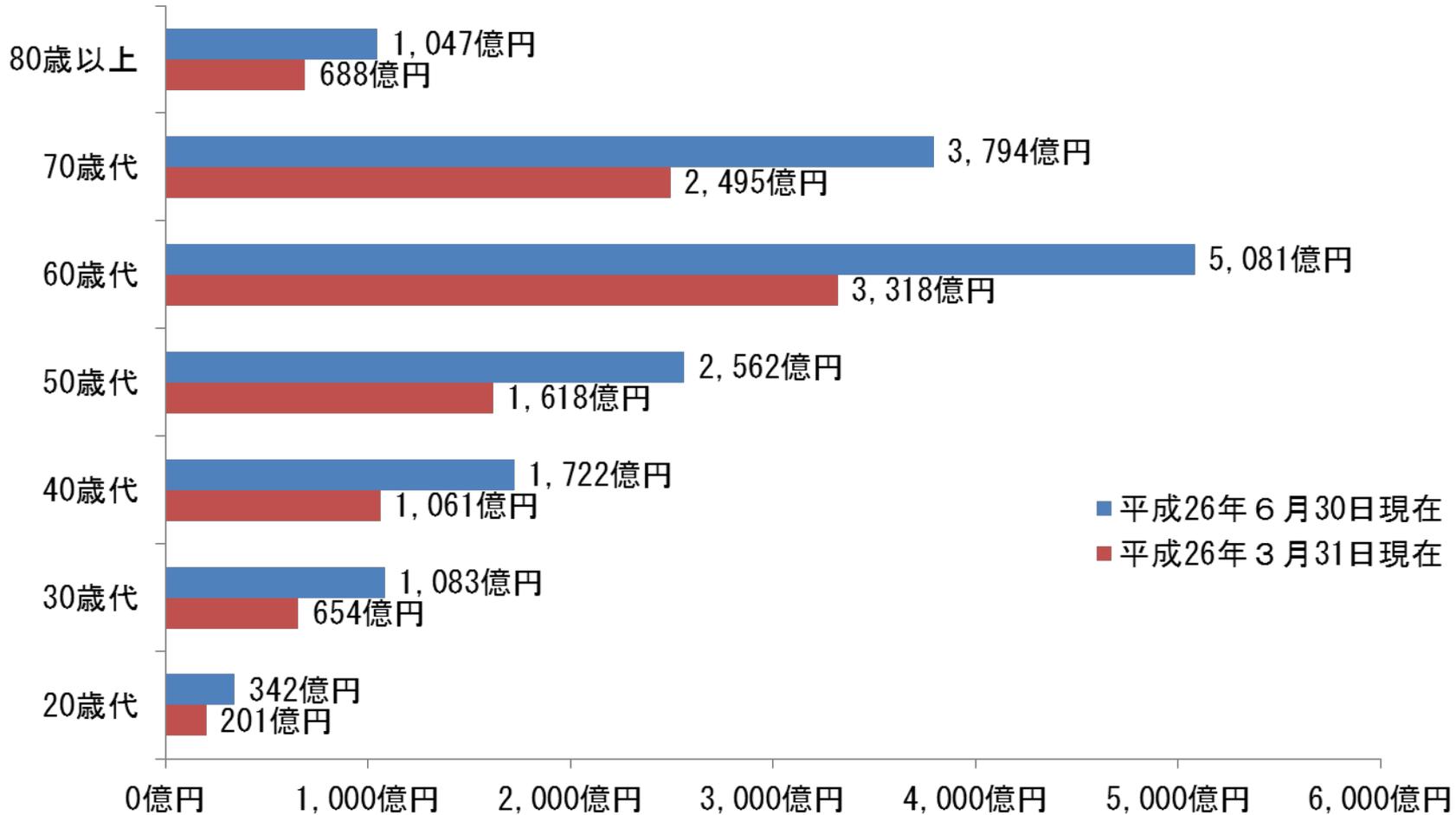
### 平成26年3月31日現在



NISA口座数は、60歳代以上の世代が、58.4%を占めている。(平成26年3月31日現在、59.8%)

出所) 金融庁公表資料

# I-4 年代別NISA口座の買付状況(平成26年6月30日現在)



買付代金ベースで見ても、60歳以上が、全体の63.5%を占めている。(平成26年3月31日現在、64.9%)

出所) 金融庁公表資料

## Ⅱ—1 証券会社のNISA口座の開設状況(平成26年6月30日現在)

	平成26年6月30日現在	平成26年3月31日現在	増減
1. NISA取扱証券会社 (251社中)	131社	129社	2社増加
2. NISA総口座数	4,632,298口座	4,215,774口座	416,524口座、9.9%増加
(1) 投資経験別 (注1、2)			
① 投資経験者	4,066,751口座 (構成比87.8%)	3,759,359口座 (構成比89.2%)	307,392口座 (1.4%減少)
② 投資未経験者	565,547口座 (12.2%)	456,415口座 (10.8%)	109,132口座 (1.4%増加)
(2) 男女別			
① 男性	2,657,910口座 (57.4%)	2,429,388口座 (57.6%)	228,522口座 (0.2%減少)
② 女性	1,974,388口座 (42.6%)	1,786,386口座 (42.4%)	188,002口座 (0.2%増加)

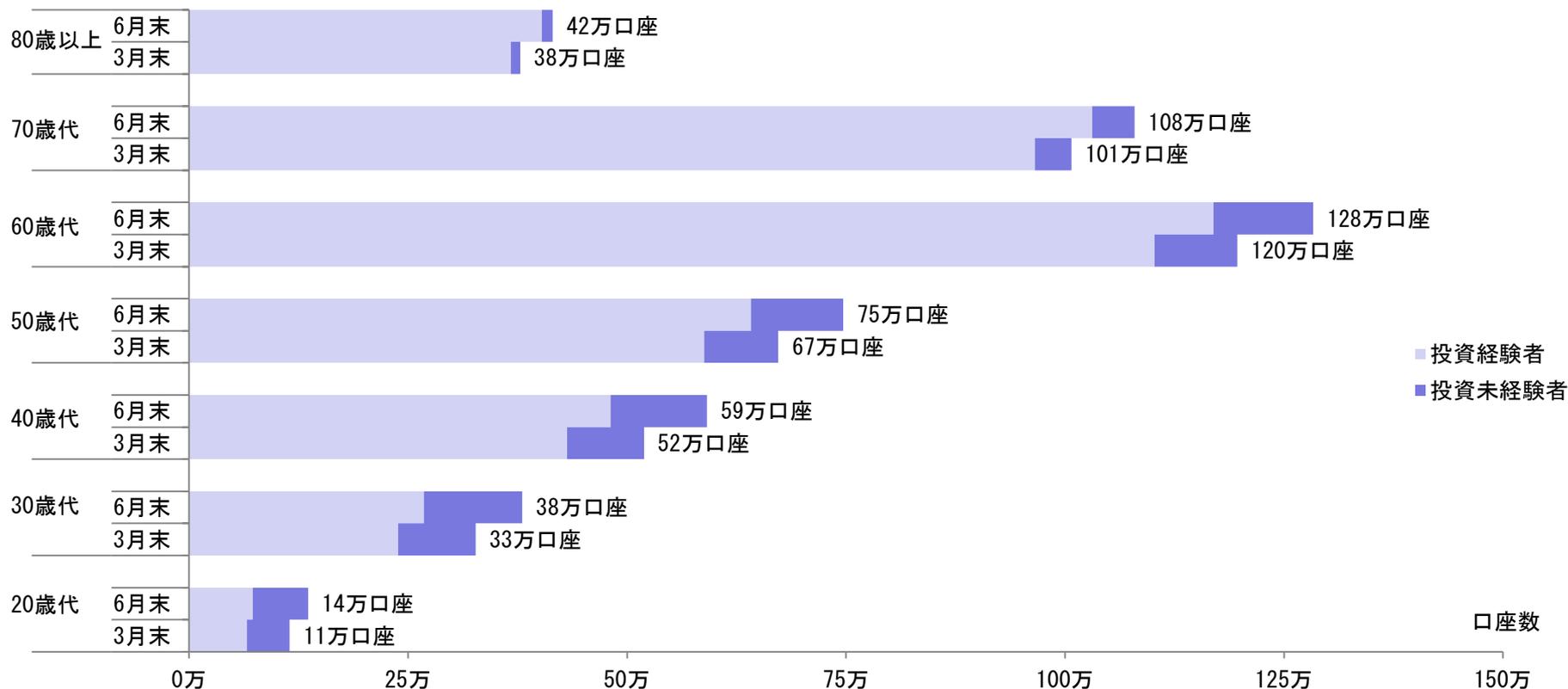
(注1) 一部の証券会社から修正があり、平成26年3月31日現在の投資経験者は3,744,874口座から3,759,359口座、投資未経験者は470,900口座から456,415口座に修正。

(注2) 「投資未経験者」は平成25年4月1日以後に証券口座を開設した者。

## Ⅱ—2 証券会社のNISA口座の買付額(平成26年6月30日現在)

	平成26年6月30日現在	平成26年3月31日現在	増減
<b>NISA総買付額</b>	9,201億77百万円	6,080億24百万円	3,121億53百万円、51.3% 増加
<b>上場株式</b>	4,949億15百万円 (構成比 53.8%)	3,645億14百万円 (構成比 60.0%)	1,304億1百万円、35.8% 増加
<b>投資信託</b>	3,966億54百万円 (43.1%)	2,257億87百万円 (37.1%)	1,708億67百万円、75.7% 増加
<b>ETF</b>	140億30百万円 (1.5%)	91億4百万円 (1.5%)	49億26百万円、54.1% 増加
<b>REIT</b>	145億78百万円 (1.6%)	86億20百万円 (1.4%)	59億58百万円、69.1% 増加

## Ⅱ—3 証券会社の年代別・投資経験別NISA口座数 (平成26年6月30日現在)



- ・年代別の構成は、60歳代以上が約60%（前回約61%）、20歳代～50歳代が約40%（前回約39%）
- ・全世代で416,524口座、約10%の増加に対し、20歳代では21,292口座、約19%増加、30歳代では53,340口座、約16%増加した。
- ・投資未経験者は全世代で109,132口座、約24%の増加に対し、20歳代では14,808口座、約30%増加、30歳代では23,938口座、約27%増加した。

## Ⅱ—4 証券会社におけるNISA口座の利用状況 (平成26年6月30日現在)



総口座数 (①)

4,632,298口座

うち 買付があった口座 (②)

1,329,222口座 (②÷① 28.7%)

総買付額 (③)

9,201億77百万円

NISA口座平均買付額 (③÷②)

69.2万円 (100%)

〔	うち	上場株式	37.2万円	(53.8%)
		投資信託	29.8万円	(43.1%)
		ETF	1.06万円	(1.5%)
		REIT	1.10万円	(1.6%)
〕				

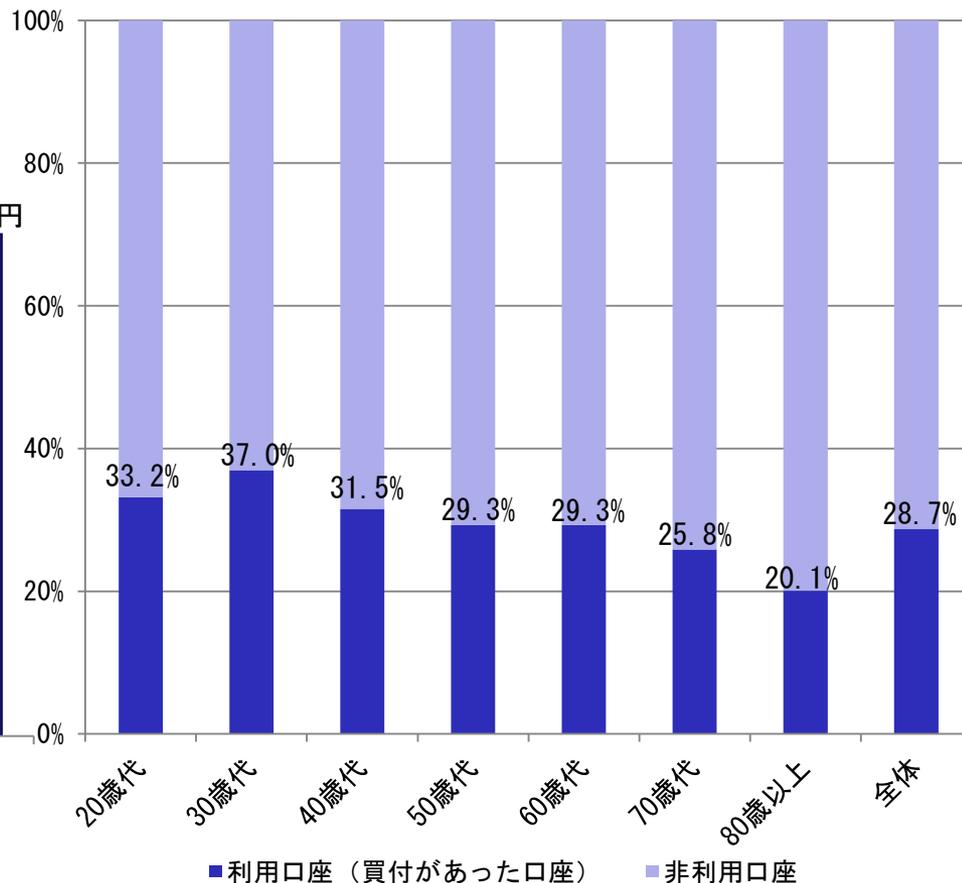
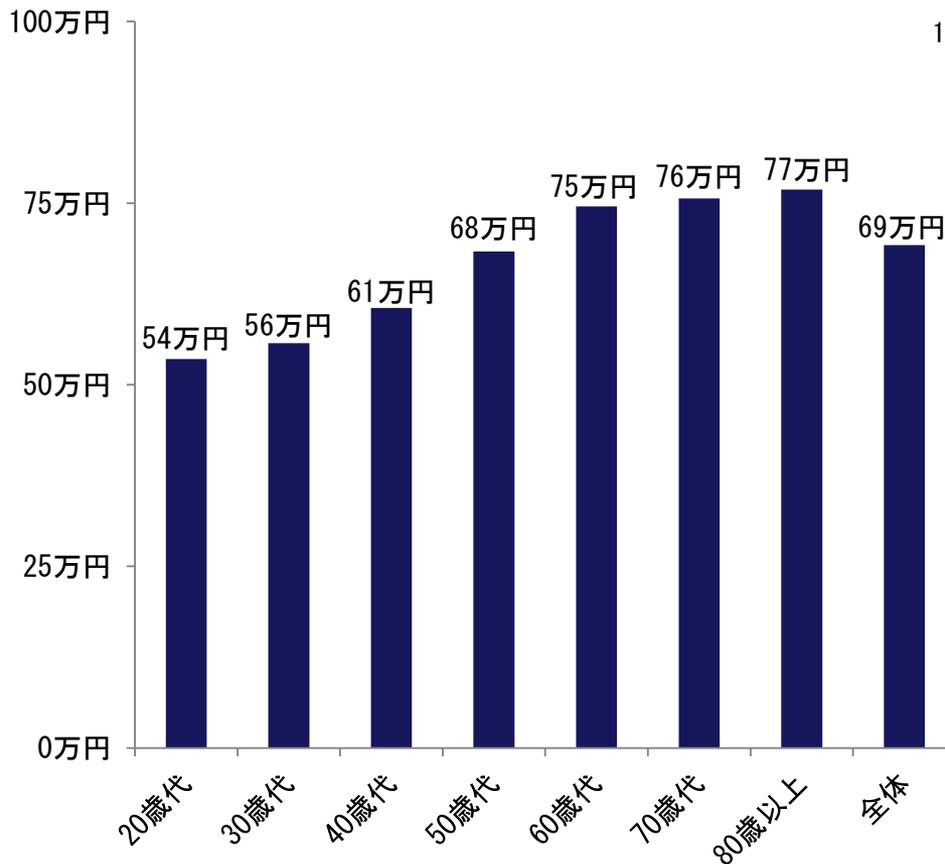
※平成26年6月30日現在調査より追加された項目

# Ⅱ-4 証券会社におけるNISA口座の利用状況 (平成26年6月30日現在)



証券会社におけるNISA口座の年代別平均買付額

証券会社におけるNISA口座の利用状況



・平均買付額は年代が高くなるにつれて大きくなる一方、利用口座の割合は若年層の方が大きくなっている。

## 主要証券会社10社のNISA口座の開設・利用状況

	平成26年12月31日現在	平成26年11月30日現在	増加	増加割合
1. NISA総口座数	4,066,810口座	3,996,463口座	70,347口座	1.8%
うち 買付があった口座数 (総口座数に占める割合)	1,832,745口座 (45.1%)	1,611,198口座 (40.3%)	221,547口座 (4.8ポイント)	13.8%
2. NISA総買付額	14,189億円	11,955億円	2,234億円	18.7%
3. NISA口座平均買付額	774,194円	741,994円	32,200円	4.3%
4. 積立買付契約口座数	245,320口座	225,485口座	19,835口座	8.8%
5. 積立総買付額	699億円	611億円	88億円	14.4%

(注) 主要証券会社10社：大手証券会社5社、インターネット専業証券会社5社